

情報処理センターのこれからの役割

情報処理センター所長 湊 敏

最近、e-Learningという言葉をよく目にしたり、聞くようになった。これまでの情報処理センターにとっては、学生・教員へのコンピュータによる研究支援と学生に対するコンピュータ教育の支援が大きな役割であった。しかし、e-Learningという言葉から考えると、情報処理センターは今後一般授業においても情報処理センターを利用できる体制を作っていく必要があるように思う。

これまでの情報処理センターの役割といえば、研究支援と教育支援がほぼ半々であった。研究支援が大きな役割を占めていたのは、コンピュータ自体が高価なものであり個人がコンピュータを持つことが不可能であったからである。しかし近年のコンピュータのハードウェアとソフトウェアの進歩により、一般的な研究ではパソコンの能力で十分になってきた。

現在の情報処理センターでは、教育支援がほぼ90%を占め、研究支援はごく僅かになってきた。教育支援の内容は、パソコンの操作法、基本的なソフトウェアであるワープロ、表計算、電子メール用ソフト（メーラー）の操作法が大きな役割を占めている。しかし、今後本学に入学してくる学生は上に述べたパソコンの基本的な利用法は、小学校、中学校、高校で学んでくるものと考えられる。

これからの情報処理センターの主たる役割として、2つのものが考えられる。1つは専門教育で利用する特殊なソフトウェアの教育支援である。もちろん、現在でも行われているが、今後大きな割合を占めてくると考えられる。もう1つは、一般授業におけるマルチメディア教材提示への支援である。この支援を行うためには、種々の課題はあるが、授業改革という面からも教材提示に対する支援を行う必要がある。このような時期に、情報処理センター職員の指導の下に学生スタッフによるセンター利用の電子教材が作られたことは、喜ばしいことである。